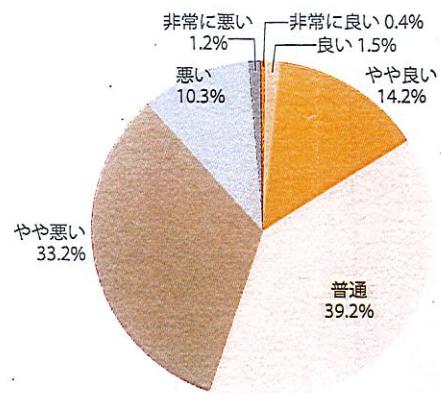


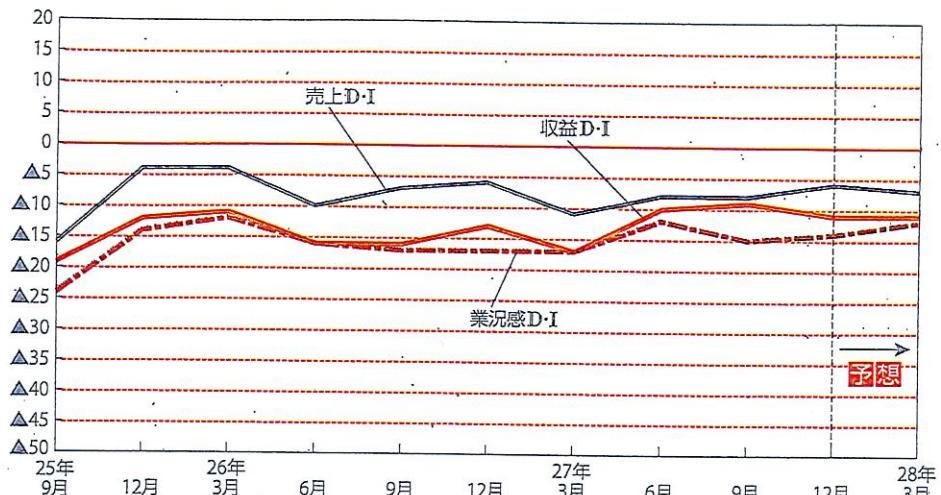
◆中小企業の「業況感」平成28年度は？

ある金融機関の中小企業動向調査によると平成28年度の業況感はわずかに改善するも概ね横ばいとの見通しだ。売上げも若干持ち直すものの、ほぼ前期並みで、収益については幾分悪化か横ばいとの事で、今後企業格差が顕著となる模様だ。

1. 平成28年の日本の景気見通し



●業況感、売上、収益D・Iの推移



◆中食・惣菜産業、将来の展望！②

変貌を遂げる日本社会と食のライフスタイルについて、超高齢社会を迎えた日本は2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、より一步深化したステージに入る。65歳以上の高齢者のうち、要介護者の割合が一気に高まる後期高齢者が過半を超える。一方少子化により現役世代は大きく減少し、総人口も着実に減っていく。2010年に1億2,806万人迄増加した総人口は2025年には700万人以上の減少が見込まれ、深刻な事態に直面するのが「2025年問題」である。食について言えば人口の減少により日本の食市場の縮小が予想される。しかし世界の人口は爆発的な増加傾向にあり、世界の食料需要は急増し、今後食料の争奪戦が熾烈化する可能性がある。



◆拡大する「エシカル消費」とは！

地球環境や社会環境などに配慮したモノやサービスを積極的に消費する行動でエシカル(ethical)とは「倫理的」「道徳上」と訳す。自然保護や省資源に役立てようとする「エコ消費」、健康で持続的な社会を目指す生活スタイル「ロハス」、搾取しないために途上国商品を適正価格で購入する「フェアトレード」、社会的弱者の支援につながる「チャリティー消費」、地域活性化の一助となる「地産地消」等を包括すると言う消費行動や思想が今、世界的に広がりつつある。これは1990年代後半にイギリスから発達した概念でもある。

◆加速する温暖化！⑧

今、永久凍土の急速な融解が問題視されている。シベリア、アラスカ、カナダなどの北半球に広がっている永久凍土は陸地の約15%にもなる。米国の国立大気センターの調査によれば北半球の永久凍土の約90%が2100年までに融解する恐れがあると予測され、その結果、二酸化炭素(CO₂)やメタンなどが大量に発生し、温室効果ガスが増大し、地球温暖化を增幅させる。永久凍土が溶けるとその中のメタンハイドレートが大気中に放出され、その量は大気中にあるメタンをはるかに超え、温暖化係数は二酸化炭素の21倍もあり、地球環境への影響は大きい。

